

生命維持装置を装着した患者の転院搬送における 地域連携部の役割について

奥川満彦^{1)*}、奥崎幸子¹⁾、麻里美紀¹⁾、小島万央佳¹⁾、甲田久美子¹⁾

要旨：地域連携部は、県内外合わせて年間 4,000 件余りの病病連携、病診連携窓口となっており、そのうちドクターヘリや高規格救急車での転院搬送は 80 件となっている。今回、生命維持装置など多くの機器を装備してヘリ搬送となった事例を報告した。本例では、連携部が調整役となり搬送時を想定してのシミュレーションや情報共有をしたことがスムーズな転院搬送につながったと考えられた。

キーワード：生命維持装置 転院搬送 地域連携

NOTE

Role of Regional Alliances Section to Complete Transportation of Patient Assisted with Life Supporting System to Destination Hospital

Mitsuhiko OKUGAWA¹⁾, Sachiko OKUZAKI¹⁾, Miki ASARI¹⁾,
Maoka KOJIMA¹⁾, Kumiko KOUDA¹⁾

Abstract: Regional alliances section introduces and receives patients reciprocally among medical institutions inside/outside Aomori prefecture. The number reaches around 4,000 per year, which includes 80 transported by doctor helicopter or ambulance of high standard. We herein reported a patient who was successfully transported to the destination hospital by using the doctor helicopter assisted with life supporting system. In this case, it was critical for safely completing the transportation that our section acted as a center of interinstitutional collaboration, carried out the detailed simulation before the actual transportation, and shared the important information among the related institutions and staffs.

Key words: Life supporting system, Transportation to destination hospital, Regional alliances

¹⁾ Regional alliances section, Mutsu General Hospital, 1-2-8 Kogawa-machi, Mutsu, Aomori 035-8601, Japan
Corresponding Author: M. Okugawa
(m_okugawa@hospital-mutsu.or.jp)
Received for publication, August 5, 2016
Accepted for publication, October 5, 2016

¹⁾ むつ総合病院地域連携部
責任著者：奥川満彦
(m_okugawa@hospital-mutsu.or.jp)
〒035-8601 青森県むつ市小川町一丁目 2 番 8 号
TEL: 0175-22-2111 FAX: 0175-22-4439
平成 28 年 8 月 5 日受付
平成 28 年 10 月 5 日受理

はじめに

地域連携部では、医療機関の機能分化の推進と共に「病病」（病院と病院）連携、「病診」（病院と診療所）連携が年々増加しており、青森県内のみならず県外からの連携も含め、年間約4000件の連携数となっている（図1）。

中でも、救急医療用ヘリコプター（ドクターヘリ）や高規格救急車および当院所有の救急車による転院搬送は年間約80件となっており（図2）、救急患者の搬送時は連携室内も緊迫する。

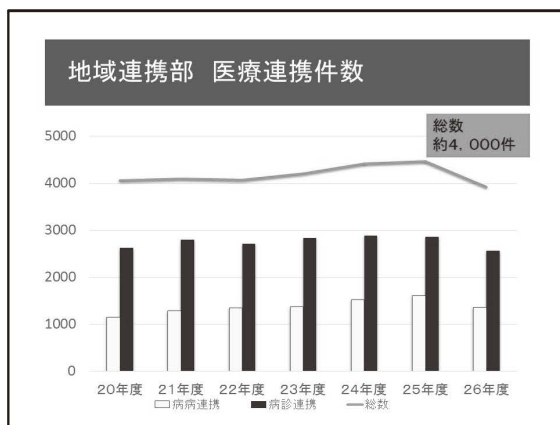


図1.医療連携件数
(平成20年度～平成26年度)

緊急を要する循環器疾患、脳神経外科疾患、周産期医療など専門医療を要する場合は、高次医療機関である弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院への搬送となる。搬送に際しては、診療情報提供書、検査データ、カルテ作成のための医療保険情報などの情報提供を行っている。

今回我々は、生命維持装置など多数の医療機器と共にヘリ搬送予定との連絡を受け、搬送実施に至るまで地域連携部が連絡調整の責務を担い、患者の経過について報告した。

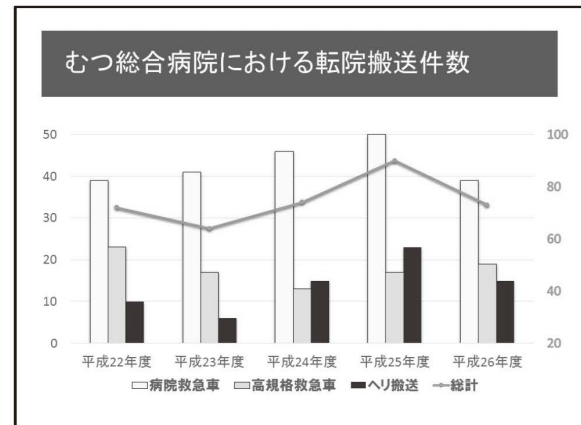


図2.転院搬送件数
(平成22年度～平成26年度)

患者概要

男性（55歳）心筋梗塞、急性心膜炎でICU入室中であり、Intra-aortic balloon pump (IABP)、Percutaneous Cardio Pulmonary Support (PCPS)などの生命維持装置や輸液ポンプなどを装着した状態で、専門的加療のために弘前大学医学部附属病院へのヘリ搬送予定となった。

実施経過

平成27年5月18日循環器内科部長より患者概要説明と共にヘリ搬送についての連絡があった。

地域連携部では臨床工学科及び消防本部に、ヘリ搬送の可否について相談をした。その内容は搭載資器材の大きさ、防災ヘリの機内電源と資器材の消費電力及びバッテリーの有無、ヘリ搬送時の振動と気圧変化への耐性、機内での除細動器使用の可否などであり、詳細な項目の確認は電話だけでは困難であった。

そこで、同5月19日ICUにて、医師、臨床工学技士、下北消防本部警防課スタッフ立会いの下で詳細な打合せを実施し、加えて搬送時の同行者、タイムスケジュール、医療機器取扱いの注意点などについて確認を行った。消防本部では前日の連絡を踏まえ、多くの機器を収容する車内スペースを確保するために、モニター類が装備されている高規格車ではない救急車を利用し、IABP予備機を用いて収容方法のシミュレーションを実施した。打合せ終了後には各担当者間の情報共有のため、スケジュール表を作成し院内関係者へ配布した。

同5月20日 搬送当日は快晴であり、予定通り弘前大学医学部附属病院へ診療情報等をFAX送信、消防本部への搬送要請をするとともに、転院搬送時もヘリ離着陸場であるむつ運動公園まで同行し介助を行った。患者は弘前大学医学部附属病院のICUに収容されるまでの約2時間45分、容態変化も特に認めず無事搬送、転院された。

考察

当院において今回の事例のような患者搬送は前例が無かったが、小児クベースを搭載しての防災ヘリ搬送や、実施には至らなかったが呼吸器装着での搬送を検討した経験が、下北消防本部から青森県防災航空グループとの詳細なやりとりを可能にしたと思われる。また、搬送2日前に連携室へ連絡があったことによって、病院内スタッフと下北消防本部、青森県防災航空グループと事前確認や搬送時のシミュレーションを行うことができた。

今回の搬送事例を経験したことで、緊急搬送に必要な情報、注意すべきポイントの再確認を行うことができた。転院搬送の情報を事前に医師や病棟看護師から連携部へ連絡があったことが、スムーズかつ短時間での搬送につながるために重要であることが実感された。

まとめ

地域連携部は院内多職種や院外関係者とのタイムリーな連絡調整を行い、その関係者との情報共有を司る役割を担う部署である。今後は、下北地域の中核病院としてのむつ総合病院が高次医療機関への搬送などをよりタイムリーかつスムーズに実施できるよう、関係者との連携を日常的に深めていくことを目指していきたい。

本論分の要旨は、平成27年度下北救急医療研究発表会(H28.10.22)において発表した。